

2021 年度
(令和 3 年度)
事業報告書

2021. 4. ~2022. 3

公益財団法人 神経研究所

事業報告書

(2021年度)

1. 理事会・評議員会の主な決議・承認・報告事項

2021年6月2日(水) 定時理事会

- (1) 2020年度事業報告の審議及び承認
- (2) 2020年度決算報告及び監査報告の審議及び承認
- (3) 任期満了する理事 高橋清久氏、井上雄一氏の再任を定時評議員会へ推薦することを決議
- (4) 定時評議員会の招集及び開催について

2021年6月24日(木) 定時評議員会

- (1) 2020年度事業報告の審議及び承認
- (2) 2020年度決算報告及び監査報告の審議及び承認
- (3) 理事会より再任推薦の理事 高橋清久氏、井上雄一氏の再任を承認

2022年3月2日(水) 定時理事会

- (1) 2022年度事業計画(案)の審議及び承認
- (2) 2022年度収支予算書(案)の審議及び承認
- (3) 2022年度資金調達及び設備投資の見込みについて審議及び承認
- (4) 2021年3月定時理事会第五号議案の訂正と追認について審議及び承認
- (5) 公益財団法人神経研究所定款の変更について審議及び承認
- (6) 附属睡眠呼吸障害クリニック個別規定の変更について審議及び承認
- (7) きらぼし銀行との取引について審議及び承認
- (8) 評議員会の招集及び開催について

2022年3月24日(木) 評議員会

- (1) 2022年度事業計画(案)の審議及び承認
- (2) 2022年度収支予算書(案)の審議及び承認
- (3) 2022年度資金調達及び設備投資の見込みについて審議及び承認
- (4) 2021年3月24日評議員会第五号議案の訂正と追認について審議及び承認
- (5) 2021年3月24日評議員会第六号議案の訂正と追認について審議及び承認
- (6) 公益財団法人神経研究所定款の変更について審議及び承認
- (7) 附属睡眠呼吸障害クリニック個別規定の変更について審議及び承認
- (8) きらぼし銀行との取引について審議及び承認

(1) 附属晴和病院

1. 概況

<入院>

令和3年度の入院状況は1日平均患者数が41.5人と前年度に比べ3.5人増と微増ではあるものの、予算人数54.2人には遠く及ばなかった。上半期の1日平均患者数は43.5人と上半期予算の1日平均患者数と同数で折り返し、下半期の伸びに期待したが、下半期の1日平均患者数は39.4人と40人を割り込んだ。特に入院患者にコロナ陽性者が発生した1月以降の3ヵ月は新規入院患者の制限などが響き、1日平均患者数が34.0人と大きく失速した。院内感染対策チームの素早い対応で感染拡大は制御できたものの大きなマイナス要因となった。年間平均在院日数は40.0日で前年度の39.7日とほぼ同日であるが、これは精神疾患患者を主とした病床では特筆すべきであり、アスペルガー症候群などの発達障害を対象とする、2週間及び3週間の検査入院の拡充とともに、発達障害患者の約20%が該当するといわれる睡眠障害の検査入院についても、睡眠検査設備を刷新し継続的に取り組んだことが、大きく影響しており、当院の大きな特色である。

	平成29年度	平成30年度	令和1年度	令和2年度	令和3年度
延在院患者数	31,176	27,182	24,724	13,860	15,132
1日平均在院患者数	85.4	74.5	67.6	38.0	41.5
平均在院日数	72.5	60.7	56.1	39.7	40.0
1人1日平均単価	18,451	19,616	19,245	20,181	21,430

<外来>

外来の年間1日平均患者数は128.1人と前年の120.1人から堅調に推移しており、初診患者の半分以上を占める睡眠障害と発達障害の増加傾向が続いている。半面、統合失調症の減少傾向及びうつ病や神経症圏の患者の漸減傾向も継続していることから、更に当院の特徴を活発に広報するなどして、地域からの紹介を受け入れたい。

最近では、発達障害の中でもADHDの一部の例では、睡眠障害の一種である過眠症を合併することがわかってきた。発達障害と睡眠障害と対象を異にしてスタートした外来であるが、両者が協働して精神科医療の隠れたニーズを掘り当てたといえることができるように思う。

前年度から開始した訪問診療はまだまだ結果が出ていないが、引き続き、引きこもり、睡眠障害、認知機能の低下した患者など、通院が困難な患者を、公的機関や近隣医療機関と連携して、引き受けていきたい。

	平成29年度	平成30年度	令和1年度	令和2年度	令和3年度
延外来患者数	32,935	33,216	33,184	31,585	33,940
新規患者数	1,064	1,129	950	699	713
1日平均患者数	122.9	123.9	122.9	120.1	128.1
1人1日平均単価	5,859	5,803	5,807	5,743	5,848

<デイケア>

平成26年度に大規模デイケアの算定を取得後、建物床面積から最大50人までの受け入れを可能としたが、受け入れ人数は飛躍的に増え、受け入れが難しい状況が続いていた。平成30年4月の診療報酬改定で小規模ショートケアが新設されると、下記の表でも顕著であるが、デイケアからショートケアへの移動が多くみられ、特に発達障害は小規模ショートケアが適しており、多くの参加者が移動した。その後、デイケア室の努力により、生活支援などのデイケアへの誘導や一時激減したリワークの新規参加者も徐々に回復傾向にあったが、コロナ禍により、2020年4月、5月の土曜デイケアは全休とせざるを得ず、一時的に大きく患者数を減らした。2020年5月末の小石川東京病院への移転に伴い、最大70名までの大規模デイケアが実現可能となり、土曜のデイケアでは70人に迫るなど、回復の兆しはあったものの、長引くコロナ対策と共に、厳しい状況は現在まで続いている。しかし、厳しい状況の中で前年度に発足した発達障害患者の家族会などとの交流を生かし、患者及び患者家族が満足いく、バリエーション豊かで充実したプログラムの構築と提供を引き続き継続したい。

	平成29年度	平成30年度	令和1年度	令和2年度	令和3年度
ショート・ケア算定回数	2,857	3,672	3,177	2,821	3,115
デイケア算定回数	4,064	2,575	2,591	1,915	1,581

<看護部>

看護部は「専門的知識の習得、接遇の向上のため院内教育の充実」と「安全管理、感染管理の基本方針の徹底と実践」を目標として取り組んだ。今年度も年間を通し地域一般入院料15:1、看護補助者加算30:1の要件を満たすことができた。コロナ禍の煽りを受け入院患者は計画通りに増加しないため、2月以降1看護単位に縮小した。一方で外来患者は増加傾向であり、また外来業務も多岐にわたっているため、看護スタッフを病棟から外来にリリーフに出すなど、調整を行った。職員、入院患者から数名のCOVID-19陽性者が発生したがICT委員会を中心に感染対策の徹底を図り、拡大感染は発生しなかった。来年度も接遇の向上と安全・感染管理を徹底し、外来患者数の増加、病床稼働率の向上をめざす。

2. 実習の受け入れ

1) 医療相談室

- ・東京福祉専門学校：2022年2月(2名)
※院内感染が発生したため、オンライン実習(4日間)となった。

2) 心理室

- ・駒沢女子大学：2021年10月～2022年3月(1名)計1名
- ・人間総合科学大学大学院：2021年4月～2022年3月(2か月*2名、1か月*4名)計6名
- ・東京女子大学大学院：2021年6月～10月(1名)、10月～2022年3月(1名)計2名
- ・聖心女子大学大学院：2021年4月～9月(1名)計1名
- ・昭和女子大学大学院：2021年4月～9月(2名)、10月～2022年1月(1名)計3名
- ・帝京大学大学院：2021年4月～7月(1名)計1名
- ・帝京平成大学大学院：2021年度通年(1名)、2021年9月～12月(2名)計3名
- ・早稲田大学大学院：2021年4月～2022年3月(各2か月*3名)計3名

3) 看護部

- ・東京工科大学医療保健学部看護学科：2021年7月（統合看護実習2クール計9名）、2021年10月～11月（精神看護学実習6クール計17名）
- ・東京女子医科大学看護学部：2021年6月（精神看護学実習2クール計12名）
- ・板橋中央看護専門学校 3年課程：2022年3月（精神看護学実習ダイケア5名）

(2) 附属睡眠呼吸障害クリニック

睡眠呼吸障害クリニックは平成11年11月にわが国で最初に開設したクリニック形式の睡眠医療診療専用施設である。日本睡眠学会の認定医療機関でもあり、主に睡眠呼吸障害、睡眠時無呼吸症候群の診療をしている。他にナルコレプシーなどの過眠症、レム睡眠行動障害、周期性四肢運動障害、レストレスレッグス症候群などの睡眠障害も診療できる体制を整えている。

睡眠時無呼吸症候群は睡眠中の呼吸停止により睡眠の質の低下をきたし、日常生活に多大な影響を与えるのみならず、心血管系、代謝内分泌系への悪影響もある。高血圧、心不全、不整脈、動脈硬化の進行による心筋梗塞・脳梗塞、糖尿病などの罹患率・死亡率が増加することが疫学調査により分かっている。いわゆる生活習慣病と密接な関連がある病態であり睡眠呼吸障害の診療は予防医学の見地からも重要であると考えている。

当クリニックは睡眠医学を専門とする医師、検査技師による診療体制を整えている。患者のみならず他の医療機関からも評価されており、大学病院をはじめとする総合病院、医院などから多くの患者が紹介されている。呼吸器内科、精神科、耳鼻咽喉科を専攻する医師で診療を行い、科をまたがる病態にも対応できる体制をとっている。

従来は睡眠呼吸障害を主に診療していたが、睡眠呼吸障害以外の過眠症、睡眠時随伴症などの診療希望も多くなっているため、これらの疾患も積極的に診療している。

最近是一般の病院、医院などで睡眠時無呼吸症候群の簡易検査が容易に施行可能になっているが、正確な診断と的確な治療をするためには終夜睡眠ポリグラフ検査(PSG)が必要である。当クリニックでは最新式の睡眠ポリグラフィソムノスターシステムによるPSGを多数施行している。治療は主に持続陽圧呼吸療法(CPAP)を用いている。CPAPの治療患者数は日本有数の多さである。

睡眠時無呼吸症候群は高い有病率があるにもかかわらず、未検査・未治療の患者がいまだに多いため、医療関係者・一般の人々に対する啓発活動もおこなう。

過眠症に対しては睡眠潜時反復検査(MSLT)が診断に必須であり、当クリニックでも睡眠潜時反復検査を施行している。新規の患者が多く今後は過眠症の患者の比率の増加が予測される。

COVID-19の感染流行により2020年度から2021年度にかけて診療状況は大きく変化した。クリニック内の密な状態を避けるために多くの患者でCPAP再診の受診間隔を2～3か月に延長せざるをえず外来患者数は減少した。一般的な医療機関の受診控えの影響も受け新患、PSG検査の減少があった。

【2021年度の診療実績】

- ・外来患者数 月間平均1,201名、年間延べ14,406名
- ・睡眠時無呼吸症候群の持続陽圧呼吸(CPAP)管理患者数 約1,900名
- ・PSG検査(CPAP導入のための検査も含む) 月平均約25名

(3)精神神経科学センター

I 助成事業

1. 公募による助成

1) 研究助成課題等選考委員会（書面）

開催回数：1回

2021年5月6日開催時の申請件数は、調査研究10件、研究集会等4件、採択は、調査研究5件、研究集会等4件

- ①申請者 國石 洋 (NCNP 精神保健研究所 精神薬理研究部)
課題名「幼少期ストレスマウスが示すうつ様行動に対する耳介迷走神経刺激の改善効果の検討」
- ②申請者 國松 淳 (筑波大学 医学医療系)
課題名「呼吸が情動障害に影響を与える神経メカニズムの解明」
- ③申請者 竹脇 大貴 (NCNP 神経研究所 免疫研究部)
課題名「難治性多発性硬化症に関わる腸内細菌が、神経慢性炎症を悪化させるメカニズムの解明」
- ④申請者 高山裕太郎 (NCNP 病院 脳神経外科)
課題名「てんかんの外科治療予後を向上させる頭蓋内脳波解析アルゴリズムの開発」
- ⑤申請者 松長 麻美 (NCNP 精神保健研究所 地域・司法精神医療研究部)
課題名「授乳に伴う心理的苦痛測定尺度の開発及び標準化」
- ⑥申請者 竹島 正 (一般社団法人全国精神保健福祉協議会)
集会名「日本における第二次世界大戦の長期的影響に関する学際シンポジウム」
- ⑦申請者 西野 一三 (NCNP メディカル・ゲノムセンター ゲノム診療開発部)
集会名「筋病理セミナー」
- ⑧申請者 高橋 祐二 (NCNP 病院 脳神経内科診療部)
集会名「第17回 NCNP 脳神経内科診療部短期臨床研修セミナー」
- ⑨申請者 西野 一三 (NCNP 神経研究所 疾病研究第一部)
集会名「第19回アジア・オセアニア筋疾患センター年次集会」

【文中のNCNPは、国立精神・神経医療研究センターの略称】

2) 睡眠健康推進委員会（書面）

開催回数：1回

2021年9月6日開催時の申請件数は10件、採択は3件

①睡眠科学分野1件

申請者 鈴木 陽子 (筑波大学国際統合睡眠医科学研究機構)

課題名「ノンレム睡眠中の音刺激が気分におよぼす影響」

②睡眠医学分野1件

申請者 千葉 滋 (筑波大学国際統合睡眠医科学研究機構)

課題名「夜間・交代勤務者の睡眠におけるSOREMPの出現率と睡眠・精神状態との関連の検証」

③睡眠社会学分野1件

申請者 松井健太郎 (公益財団法人神経研究所研究部 睡眠学研究室)

課題名「COVID-19感染拡大下の睡眠に関する調査(縦断的追跡調査)」

3) てんかん医療志向若手人材育成事業（国内留学助成）

研究助成課題等選考委員及びてんかん専門医による審査（書面）

開催回数：1回

2021年12月20日開催時の申請件数は1件、採択1件

①申請者 藤 雄一朗（四国こどもとおとなの医療センター）

国立精神・神経医療研究センター病院への留学期間は2023年4月から1年間。

II 普及啓発事業

1. 睡眠に関する正しい知識の普及啓発活動

1) 睡眠の日制定10周年記念 春の「すいみんの日」市民公開講座をWEB配信にて開催

・2022年3月19日（土） 視聴者数 514名

2) 出張睡眠市民公開講座：実施14件 中止3件

・千葉県船橋市 2021年7月29日（木）市民150名

・群馬県高崎市 2021年8月6日（金）市民49名

・北海道浜頓別町役場 2021年9月6日（金）一般町民、役場職員 39名

・茨城県龍ヶ崎市役所 健康長寿課 2021年9月30日（木）～12月27日（月）一般市民（動画公開形式のため、人数は不明）

・埼玉県鴻巣市役所健康づくり課（鴻巣保健センター）2021年10月5日（火）一般市民16名

・埼玉県新座市保健センター 2021年10月17日（日）ゲートキーパー26名

・新潟県 柏崎市教育委員会 文化・生涯学習課 2021年11月7日（日）18歳以上の市民 23名

・北海道訓子府町福祉保健課 2021年11月25日（木）町民および職員 15名

・和歌山県和歌山市保健所 2021年11月28日（日）一般市民58名

・愛媛県四国中央市役所 2022年1月14日（金）市民、健康サポーター養成講座参加者等28名

・愛知県春日井市 2022年1月15日（土）市民47名

・岐阜県関市役所 2022年3月1日（火）一般市民30～40名

・熊本県あさぎり町役場 2022年3月3日（木）町内事業所等30名

・滋賀県多賀町役場福祉保健課 2022年3月10日（木）特定健診受診者25名

3) 学校訪問型睡眠講座：実施46件 中止7件

・鹿児島市立鴨池中学校 2021年5月7日（金）1.2年生264名、教師10名

・埼玉県行田市立太田中学校 2021年6月7日（月）保護者18名、生徒保健委員14名、教師15名

・柏崎市立鏡が沖中学校 2021年6月7日（月）生徒265名、教師20名、保護者10名

・帝塚山学園帝塚山小学校 2021年6月10日（木）4.5.6年生223名、教師10名

・富士市立元吉原中学校 2021年6月11日（金）1年生38名、教師5名、保護者2名

・福岡市立福浜小学校 2021年6月23日（水）5.6年生65名、保護者1名、地域4名、教師13名

・川根本町立本川根中学校 2021年6月24日（木）生徒90名、保護者4名、教師20名

・宮崎市立大淀小学校 2021年6月25日（金）児童258名、教師20名

・富士宮市立富士宮第二中学校 2021年7月7日（水）生徒286名、教職員32名、保護者5名

・南さつま市立内山田小学校 2021年7月8日（木）児童11名、職員9名、保護者7名

・札幌市立丘珠小学校 2021年7月9日（金）4年生50名、教師3名

・福岡市立原西小学校 2021年7月13日（火）児童217名、教師9名、保護者10名、校医1名

・糸満市立光洋小学校 2021年7月13日（火）5.6年生158名、教師8名

・豊田市立山之手小学校 2021年7月16日（金）児童370名、教師20名、保護者15名

・八峰町立八峰中学校 2021年7月16日（金）全校生徒120名、教職員20名

・仙台市立長命ヶ丘中学校 2021年7月19日（月）全校生徒180名、教師20名

・札幌市立稲穂中学校 2021年7月20日（火）生徒180名、教師10名

- ・大府市学校保健部会 2021年8月25日(水) 教員30名
 - ・江戸川区立松江第四中学校 2021年9月11日(土) 全校生徒560名、教員30名
 - ・豊田市立高橋中学校 2021年9月24日(金) 生徒650名、教員40名、保護者200名
 - ・東村立東小中学校 2021年10月15日(金) 中学生40名、小学5.6年生5名、教師10名
 - ・越谷市立平方中学校 2021年10月22日(金) 2年生113名、教師7名(1.3年生は後日録画視聴)
 - ・鹿児島市立松元小学校(学校保健関係者のための研究協議会) 2021年10月26日(火) 保護者、教職員、学校医等 計180名
 - ・愛知県尾張旭市立瑞鳳小学校 2021年10月28日(木) 6年生70名 教師4名
 - ・朝霞市立朝霞第十小学校 2021年10月29日(金) 4年生125名、教師7名、保護者15名
 - ・川北町立中島小学校 2021年11月5日(金) 児童78名、教員13名、保護者20名
 - ・錦江町立田代中学校 2021年11月5日(金) 保護者17名、教職員10名
 - ・田辺市立上山路小学校 2021年11月12日(金) 児童21名、保護者17名、教師12名
 - ・小牧市立米野小学校 2021年11月17日(水) 4年生145名、5年生140名、6年生130名、教師20名、保護者20名
 - ・藤沢市学校保健会 2021年11月18日(木) 藤沢市立小・中・特別支援学校職員、学校医、学校歯科医、学校薬剤師、教育委員会関係職員、PTA会員、その他 計600名
 - ・青森県板柳町立板柳中学校 2021年度11月22日(月) 中学生300名、教師30名、保護者30名
 - ・岩倉市立岩倉北小学校 2021年11月24日(水) 小学5年生116名、教師・保護者25名
 - ・丹羽郡大口町立大口南小学校 2021年11月26日(金) 児童、職員71名
 - ・茨城県坂東市立生子菅小学校 2021年11月26日(金) 高学年42名、教員8名、保護者50名
 - ・大阪市立南中学校 2021年12月1日(水) 1~3年生152名、教師30名、学校医1名、保護者10名
 - ・大府市立大府中学校 2021年12月2日(木) 全校生徒880名、教職員50名
 - ・佐賀市立小中一貫校芙蓉校(中学部) 2021年12月7日(火) 中学部生徒35名、教員10名
 - ・静岡市立南藁科小学校 2021年12月10日(金) 5.6年生37名、教師6名
 - ・佐賀市立小中一貫校芙蓉校(小学部) 2021年12月14日(火) 4年生13名、5年生11名、6年生16名、教師6名
 - ・屋久島町立金岳小中学校 2021年12月14日(火) 小中学生14名、保護者・里親4名、教師10名
 - ・鹿児島市立武中学校 2021年12月16日(木) 1年生160名、教員5名
 - ・越谷市立増林小学校 2022年1月13日(木) 5.6年生、教職員、保護者 計45名
 - ・水戸市立第二中学校 2022年2月1日(火) 全校生徒、教員、保護者 計235名
 - ・宝塚市立宝塚小学校 2022年2月10日(木) 教員、保護者 計42名
 - ・宮崎市立那珂小学校 2022年2月15日(火) 保護者18名、教師3名
 - ・徳島県不動中学校 2022年3月4日(金) 全校生徒30名、教師若干名、保護者若干名
- 4) 企業訪問型睡眠講座
- ・社会福祉法人 新宿区社会福祉協議会 2021年10月13日(火)
- 5) 睡眠健康推進機構長賞授与
- 北海道大学 名誉教授 本間研一先生へ授与
- 昨年度に引き続き新型コロナウイルス感染症予防のためセレモニーは中止した。

2. 広報活動

1) ニュースレター発行回数：2回

No.7：2021年8月発行、 No.8：2022年2月発行

3. 研究部

研究部は臨床精神薬理研究室、睡眠学研究室、発達障害研究室の3部門に分けられる。しかし、臨床精神薬理研究室は臨床試験を行う部門ではあるが、特に独立して精神薬理学を専門にする医師が現在は在籍していないために、睡眠障害と発達障害に関して臨床試験を行う場合にほぼ限られる。

睡眠学研究については、別法人である「睡眠総合ケアクリニック代々木」で行っている研究実績を紹介するが、晴和病院でも近年は活発に睡眠に関する共同研究を行っており、今後は研究報告も増えていくことが期待される。

外来部門でも紹介したように、ADHDと過眠症を合併する症例を対象として、メチルフェニデートの薬理学的作用機序を探る研究「注意欠如多動性障害の薬物療法の神経基盤の解明」（主任研究者：高橋英彦東京医科歯科大学教授）が2019年度から採択され、伊東若子医師が分担研究者として研究を行っている。これは戦略的国際脳科学研究推進プログラム（略称：国際脳）という大型研究の一部であり、当院での臨床実績が評価されたものということができる。

(1) 睡眠学センター

事業報告

① レストレスレッグ症候群（RLS）における中枢性感作（CS）の実態研究

RLSでCSが亢進することはすでに報告したが、本研究では、1) RLSに対する治療によりCS水準が低減すること、2) CS亢進の代表的疾患とされる線維筋痛症（FM）での水準がRLSと同程度であること、3) RLSでの抑うつ症状がCS上昇によって媒介されていること、4) FMとRLSが合併するケースではCSの水準は相乗的に上昇することが明らかになった。

② 閉塞性睡眠時無呼吸症候群（OSA）の家族発症に関する研究

CPAP使用中のOSAS患者1711名を対象に、第一親等内での常習性いびき、OSA関連心血管系合併症、代謝障害の有病率を調べ、家族性OSAと孤発性OSAの臨床特性について検討を開始した。本年度は、家族発症例の割合を算出すると共に、推定発症年齢、セファログラムをはじめとする身体的特性の検討を行った。

③ コロナ禍における若年者での睡眠覚醒相後退障害（DSWPD）発現実態に関する研究

Web調査により、緊急事態宣言下（昨年5月）における若年者（学生と労働者）の睡眠習慣ならびに睡眠問題、日中機能の実態をwebアンケート調査により調べた。その結果、DSWPD全体の有病率は、非パンデミック期（2019年5月）と同様であったが、新規発症者（全体の2%）と、寛解者（1.8%）が存在することが確認され、特に新規発症者では抑うつスコアの有意な上昇、presenteeismの悪化、QOLの悪化が認められた。新規発症の関連要因として、パンデミック期間中の液晶画面夜間使用時間の延長、運動量の不足が挙げられ、若年者の睡眠衛生保持の重要性が示唆された。

④ レストレスレッグ症候群（RLS）での症状重症度の季節差に関する研究

RLSでは、症状季節差が大きいとする報告が、RLS有病率が高い白人を対象とした研究によりなされているが、アジア人での検討は無かった。われわれは、400名以上のRLS患者について季節差の実態調査を行い、21%に季節差がみられ、特に夏期での悪化が大半を占めることを確認した。また、季節差の生じる要因として、RLS家族歴を有すること、季節変動の無い間歇期での重症度

が高いことが関与していることを示した。日本人でも季節変動はまれでなく、ドパミン受容体機能の脆弱性を有する遺伝負因保有者、症状コントロールが不十分な者で、この現象が生じるものと考えられた。

(2) 発達障害研究室

成人の自閉症スペクトラム (Autism spectrum disorder; ASD) を主な対象とする専門外来は 2013 年度に新設し、2021 年度末までの累計初診患者数はおよそ 2,706 名に達している。専門外来と同時に開いたデイケア (発達障害ショートケアプログラム) も順調に推移している。2020 年度からはコロナ禍の中であったが、デイケア活動は感染対策を行ったうえで続けている。

発達障害者は入院適応になることは少ないが、心理検査の予約が殺到したために 2~3 週間の検査入院システムを導入した結果、今では月に 2~3 人が入院するようになっている。個室を使用することもあって、医療収入の増加と平均在院日数の短縮に大いに貢献している。この検査入院では、専属の臨床心理士がほぼ主治医のように担当するのが特徴である。これは今の診療報酬では心理士が入院患者に対応しても医療費にカウントできないことを踏まえて、差額病室代金をそれに充てるという意図が込められている。検査入院する患者のすべてが発達障害であるはずはもちろん無く、神経症やパーソナリティ障害がむしろ多いのが現状であるが、そういう場合にも高率に外来での心理カウンセリング (特別予約診療費: 5,000 円) に誘導できることは、診療上も病院の特色になっている。

デイケアでは、成人期の発達障害者を対象とした専門プログラム (ASD、ADHD) だけでなく、大学生対象の学生プログラム、そして専門プログラム修了者向けピア・サポートプログラムを行っている。また、就労準備性を高めることを目的とした就活講座も展開し、ひきこもり防止や自立を促すための支援を図っている。これらのプログラム・コース参加者は増加傾向にある。

研究面では、2020-2021 年度、厚生労働科学研究費 (厚労科研) の「青年期・成人期の自閉スペクトラム症および注意欠如多動症の社会的課題に対応するプログラムの開発と展開」では、臨床心理課の満山かおる主任を中心にデイケアスタッフが参加しており、ASD 専門プログラム修了者がピア・サポートを通し、自助会の運営に必要と考えられる自己理解の促進やスキル獲得を図りながら持続可能なプログラムの開発・マニュアル作成に携わった。また、2021 年度から昭和大学発達障害医療研究所の五十嵐美紀研究員を代表者とする日本医療研究開発機構 (AMED) の「自閉スペクトラム症 (ASD) 当事者と家族が共に学ぶ自立促進プログラムの開発と包括的支援システムの構築」の研究分担として、発達障害者の自立に向けての研究に満山かおる主任が中心となって参画している。

こうした日頃の実績から、成人期の発達障害の診療・支援において高度な専門性を有する医療機関 (東京都拠点医療機関) として認められ、2020 年度から東京都が実施する「発達障害専門医療機関ネットワーク構築事業」を受託するに至った。この事業では、2018-2019 年度に行った研究「発達障害診療専門拠点機関の機能の整備と安定的な運営ガイドライン」(研究代表者: 加藤進昌) の研究成果を反映して、都内医療機関の医療従事者に向けた専門人材育成研修の企画・運営と医療機関への個別支援、都内医療機関の調査・情報提供、区部・多摩地区の各地域拠点医療機関との連携を図り、専門医療機関ネットワーク構築に向けた活動を行った。この活動は次年度も継続的に展開し、成人期のみならず児童思春期との連携を図る予定である。

4. 倫理審査委員会（2021年4月～2022年3月）

開催回数：3回

（2021年7月26日（月）、2021年11月29日（月）、2022年3月14日（月）開催）

2021年7月26日開催時の申請件数

1) 迅速審査で対応した申請への本承認の確認 6件

① 申請者 岡島 義

第134号-5

「発達障害のための睡眠改善プログラムの効果検討」

② 申請者 満山 かおる

第190号-4

「精神科病院における心理臨床業務で知り得たデータ解析研究」

③ 申請者 反町 絵美

第187号-4

「発達障害専門医療機関ネットワーク構築事業」

④ 申請者 本多 真

第208号-2

「脳脊髄液中のオレキシン定量および過眠症関連分子の解析」

⑤ 申請者 高橋 里衣奈

第210号-2

「自閉スペクトラム症に対するピアサポートを活用したプログラムの開発」

⑥ 申請者 満山 かおる

第213号

「自閉スペクトラム症（ASD）に対する生活力実態・認識調査」

2) 新規提出

① 申請者 満山 かおる

第214号

「自閉スペクトラム症に随伴する性別違和傾向の質的検討」

② 申請者 満山 かおる

第215号

「自閉スペクトラム症（ASD）と家族が共に学ぶ自立促進プログラムの開発」

③ 申請者 川嶋 真紀子

第216号

「ナルコレプシー患者の体験過程と心理的支援の検討」

3) 再提出

① 申請者 平澤 俊之

第182号-5

「検診版 STOP-Bang 質問紙の有用性の検討」

② 申請者 柳原 万里子

第209号-2

「レストレスレッグス症候群における中枢神経感作に関する疫学調査（縦断調査）」

③ 申請者 谷岡 洸介

第212号-2

「わが国のナルコレプシーの実態に関する疫学研究」

2021年11月29日開催時の申請件数

1) 迅速審査で対応した申請への本承認の確認 4件

① 申請者 満山 かおる

第214号-2

「自閉スペクトラム症に随伴する性別違和傾向の質的検討」

② 申請者 満山 かおる

第215号-2

「自閉スペクトラム症（ASD）と家族が共に学ぶ自立促進プログラムの開発」

③ 申請者 川嶋 真紀子

第216号-2

「ナルコレプシー患者の体験過程と心理的支援の検討」

④ 申請者 平澤 俊之

第182号-6

「検診版 STOP-Bang 質問紙の有用性の検討」

2) 新規提出

①申請者 満山 かおる

第217号

「自閉スペクトラム症と性別違和傾向の併存率調査」

② 申請者 岡島 義

第218号

「慢性不眠障害患者に対するオンライン CBT-I の有効性：無作為化比較試験」

3) 再提出

① 申請者 平澤 俊之

第182号-7

「検診版 STOP-Bang 質問紙の有用性の検討」

2022年3月14日開催時の申請件数

1) 迅速審査で対応した申請への本承認の確認 3件

① 申請者 岡島 義

第218号-2

「慢性不眠障害患者に対するオンライン CBT-I の有効性：無作為化比較試験」

② 申請者 平澤 俊之

第182号-8

「検診版 STOP-Bang 質問紙の有用性の検討」

③ 申請者 松井 健太郎

第164号-4

「睡眠不足症候群患者における終夜ポリグラフ検査上の特性の検討」

2) 新規提出

①申請者 對木 悟

第219号

「AI と歯科用画像を利活用した睡眠時無呼吸予測モデルの新規開発」

② 申請者 谷岡 洸介

第 220 号

「睡眠中の周期性四肢運動指数と臨床症状の関連に関する研究」

③ 申請者 井上 雄一

第 221 号

「覚醒維持検査の有用性に関する研究」

5. 治験審査委員会 (2021年4月～2022年3月まで)

開催回数 : 9 回

1. 2021年4月22日 (木) : 継続の可否について 3件
2. 2021年5月27日 (木) : 継続の可否について 4件
3. 2021年6月17日 (木) : 継続の可否について 2件
4. 2021年7月29日 (木) : 継続の可否について 4件
5. 2021年9月30日 (木) : 継続の可否について 3件
6. 2021年10月28日 (木) : 継続の可否について 4件
7. 2021年12月16日 (木) : 継続の不可について 3件
8. 2022年1月27日 (木) : 継続の不可について 5件
9. 2022年2月24日 (木) : 継続の不可について 4件